

保健連絡員・保健連絡員 OB による赤ちゃん訪問について

保健連絡員は、
 地域と保健行政のパイプ役であり、自分や家族、地域の健康に関心を持ち、少子高齢化社会において健康に関する様々な問題に対応できる地域づくりの担い手として、地域の状況に応じた健康づくりにつとめるボランティア
 ……資料 1-2

1 目的

育児をスタートしたばかりの不安の大きい時期に訪問することにより、地域に自分のことを知っている「頼れる近所のおばさん」がいることを親子に知ってもらい、また将来に向かってみんなで地域の子どもを支え、子育てを支えていける地域づくりを行う。専門的支援・継続的支援の必要な母親に対し保健センター事業につなげていく。
 ……資料 1-4

2 対象者

市内在住の生後 1～3 か月ぐらいまでの全乳児とその親
 4 か月未満で市内に転入した乳児とその親

3 実施者

保健連絡員・保健連絡員 OB 283 人
 (保健連絡員 219 人、保健連絡員 OB 64 人)

4 訪問の流れ

- (1) 出生 1 ヶ月後に住民登録から対象者を抽出
- (2) 地区担当保健師より、保健連絡員へお祝いの品と訪問依頼書、地図を渡し、親子健康手帳交付時の対象者の訪問についての意向などを説明し依頼
- (3) 保健連絡員が対象者と電話等で日程を決めて訪問し、連絡が取れない場合は直接訪問。訪問後結果票に記入し、地区担当保健師へ報告（結果票は返却）

5 訪問実績

対象者：H30年3月～H31年2月の出生者数	1,101 人
訪問者：対象者に対する訪問実施者数	967 人
対象者に対する訪問実施率	87.8%

※ 訪問が実施できていない 134 人については、4 か月児健診、訪問等で配布

6 参考

保健連絡員への主旨説明文(抜粋)

* 保健連絡員による赤ちゃん訪問事業の主旨 *

子育てを進めているお母さんを取り巻く現状はとても厳しいものがあります。

近所に話をする人もいない母親＝孤立している
公園に出るにも勇気がいる母親⇒公園デビューという言葉 等

「育児相談」「パパママ教室」等保健センターで開催している事業に参加される母親は育児を進めていく中で心配が出てくれば行動に移すことができる人なので安心ですが、部屋の中で子どもと向き合っただけで途方にくれてSOSも出せないでいる母親も地域にはいます。

昔は近所のおじさん、おばさんが親子に気をとめて声をかけたりする光景もあったと思いますが、近頃は声をかけるほうにもためらいがあったり、声をかけられることに慣れていない母親や子どもたちの姿があります。

保健連絡員の皆様の訪問によって孤立している母親に自分の存在を地域の人が知っていてくれると感じてもらいたい、救われた気持ちになってもらいたいと思います。

保健連絡員の皆様にお願ひする訪問は

- ① 住んでいる同じ地区に自分のことを知っている「頼れる近所のおばさん」がいることを親子に知ってもらうこと。
- ② 地域みんなで親子の成長を見守ること。

⇒⇒ 子育てを支えていける地域づくりに向かった最初の出会いの場が赤ちゃん訪問です。

また、母親が持っている不安や相談に対して人生の先輩である連絡員の皆様の経験等をお話ください。そして、必要に応じて保健師や助産師などの専門職の訪問や保健センター事業を紹介しつないでください。